

みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち 農林水産研究の推進（委託プロジェクト研究） 日本と木材輸出相手国の樹木を外来病害虫から護る 複合リスク緩和手法の開発【研究概要】

1. 研究目的

樹木の外来病害虫の日本への侵入阻止の方策を提案するとともに、環境負荷を抑えながら病害虫フリーの木材輸出を可能とするシステムズアプローチ（※）を確立することを目的とする。

※ 木材生産の各段階で病害虫被害低減技術を示し、それらから独立する2種以上を用いて病害虫リスクを低下させる手法

2. 研究背景

近年、複数の外来害虫種が国内に立て続けに侵入し、日本の樹木に枯損被害が発生しており、侵入防止策の策定などの対応が求められている。

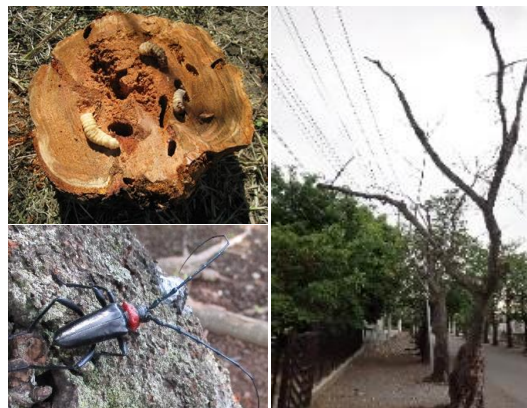
また、木材の輸出については、国際植物防疫条約においてオゾン層破壊物質である臭化メチル燻蒸処理に代替するシステムズアプローチが提案され、国内での確立が必要である。

3. 研究内容

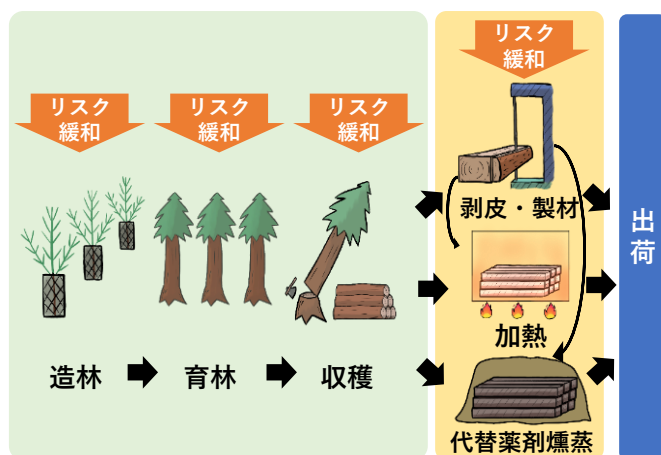
- ①外来の樹木病害虫の侵入を阻止するため、これまでの外来害虫の侵入経路を分析するとともに、今後侵入が懸念される危惧種をリストアップする。
- ②日本からの輸出が多いスギ・ヒノキの木材生産の各段階における病害虫の被害リスクを評価し、リスク緩和手法を開発する。
- ③システムズアプローチを用いた輸出木材生産のマニュアルを作成する。

4. 期待される効果

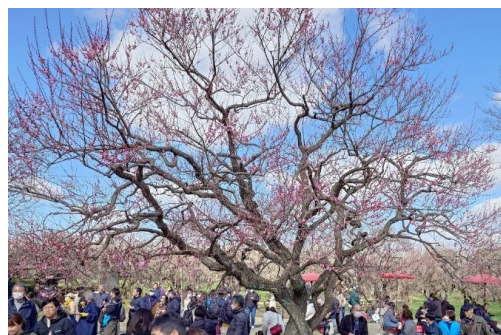
- ・ 外来の樹木病害虫の新規定着拡散を大幅に削減
- ・ 木材輸出の安定化を通じて、エリートツリー等を活用した再造林を促進



外来種クビアカツヤカミキリによる樹木被害



システムズアプローチを用いた木材生産フロー



国家間の病害虫移動リスクを緩和し、
外来の樹木病害虫から日本の樹木を護る

研究代表機関：国立研究開発法人 森林研究・整備機構

共同研究機関：長野県林業総合センター、岐阜県森林研究所、鹿児島県森林技術総合センター、農業・食品産業技術総合研究機構、東京都立大学、京都大学、鹿児島大学、中国木材株式会社、沖縄美ら島財団